

4 教育に関する学識経験者の意見

認定こども園つつじが丘幼稚園 園長 杉本 伸子

(帯広市立明星小学校 元校長)

帯広市教育基本計画（令和2年度～令和11年度）の4年目である令和5年度の取り組みについては、令和4年度の課題や方向性を受け、その改善に誠意努力された様子が伝わり、施策の推進とともに適切・的確であると判断いたします。

基本施策1 帯広の明日を拓く力の育成「ふるさと教育の推進」では、生まれ育った帯広市への誇りと愛情を育む取り組みとして、「おびひろ市民学」による学びの推進と食を通してふるさと理解を深めている姿を評価します。特に、アレルギー児の増加や食材費高騰の中、子どもたちが最も身近に感じている給食を題材に、給食センターと連携した帯広らしい食育プログラムや「ふるさとの日」等の取り組みを継続している点を評価します。今後も、できる限りの地産地消に取り組むと共に、地域社会に参画する意識の醸成を図る教育が推進されることを期待します。

基本施策2 変化する社会に挑戦し、たくましく生きる力の育成「学びを生かす力の育成」における、一人一台端末を活用した学習は、この1～2年のうちに教室での学びを一変させました。個別最適な学びや協働的な学びが、ICTの中でも自由な広がりを持って進められていること、帯広市として一定の水準をもって全小中学校や南商業高校で取り組まれていることを評価します。また、帯広市図書館と連携した「ぶっくーる便」や児童会館を利用した科学的な学びの体験等も、帯広市の教育として定着し、大切に継続されている点も高く評価します。今後は、長期にわたり「帯広の子どもの学力」としてまとめられている学力の分析・検証を今一度、更なる学力向上に向け、新たな観点から再考されることを期待します。

「教員の資質・能力の向上」では、授業内容がよくわかると思う子どもの割合が昨年度に比べ減少しています。授業での端末利用について、教師サイドのスキルが追いついていないことが原因の一端であるように考えます。しかし、様々な研修が着実に進められていますので、その成果が必ず現れると期待しています。また、校務支援システムの導入により、教職員の働き方が少しずつ改善されている点を評価します。

基本施策4 安全・安心な教育環境の整備「誰もが安心して学べる教育の推進」における、不登校児童生徒の多様な学びを確保する「ひろびろチョイス」と通える場所としての「ひろびろ」は、外部との繋がりを喪失しやすい子どもを支援する一助となっている点を評価します。障害や困り感をもつ子どもたちのニーズに応えられる特別支援教育の一層の充実を期待します。

令和元年度から流行した新型コロナウイルス感染症により、教育現場は様々な変革を余儀なくされました。しかし、その間にICTの活用を推進するなど、教育の歩みを止めないための不断の努力を進められたことが令和5年度の個別施策の数々から感じられました。感染症が5類に移行した今後、帯広市の未来をつくる人づくりのため、2つの基本目標を柱に、市民一体となった教育が発展することを期待いたします。

帯広市社会教育委員 副委員長 久保田 博己

帯広市教育基本計画(令和2年度～令和11年度)の4年目にあたる令和5年度の取り組みについては、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、活動の制限がなくなったこともプラスの要因のひとつとなり、多くの項目で目標値に向けて進捗しており、適切であると判断いたします。

「帯広の明日を拓く力の育成」では、活躍する人材育成のため、地域や環境を学ぶ機会や各種団体と連携して働くことの意味、仕事の楽しさを学ぶ機会を増やし、体験活動やリーダー研修を通して地域社会の一員としての意識づくりを育むことが必要と考えます。特に防災・減災意識の啓発を進めて、まちづくりの参画者としての意識づくりを推進することを期待します。また、情報モラルについての正しい知識を身につける学習機会の提供や教育課程を進め、著作権やプライバシー保護などについて理解を深める取り組みが推進されることを期待します。

「変化する社会に挑戦し、たくましく生きる力の育成」では、道徳教育の充実を図るため、地域人材やゲストティーチャーを積極的に活用することが望ましいと考えます。また、市内に書店が少なくなっていることから、子どもたちの情操教育推進のため、朝読書や学校図書の活用、司書、図書ボランティア、図書館との連携を一層進められることを期待します。また、ICT活用のため、電子書籍の利用促進と拡充を期待します。

「地域とともに育む教育の推進」では、コミュニティ・スクールを中心として家庭、地域、学校協働による「地域とともにある学校づくり」が活性化することを期待します。子どもを注意深く見つめ、地域で子どもを育てる意識を育むため、こころの教育相談員、家庭訪問相談員など、子どもや保護者の悩みについての相談対応が出来る体制があることの周知・啓発に継続して取り組むことが必要と考えます。また、各学校PTAと協力して、家庭における基本的な生活習慣の確立に向けた取り組みを進められ、家庭、地域、学校の連携強化が推進されることを期待します。

「安全・安心な教育環境の整備」では一人一人に応じた教育を進めるために、個別の指導計画及び教育支援計画の作成は重要であり、継続した取り組みが必要と考えます。支援や配慮が必要な子どもたちの理解促進のためにも、関係機関・保護者・他の子どもたちへの研修、相談対応を繰り返し、一人一人に応じた教育が充実されることを期待します。また、不登校の児童生徒の個別の悩みや原因に対応するための相談体制の一層の充実と、あわせて、社会的自立を支援するためのメタバース空間「ひろびろチョイス」のさらなる活用に期待します。

「自ら学びともに支える生涯学習の推進」では、幅広い年齢層、ニーズに合わせた講座の設定が一層進むことを期待します。とかちプラザ、図書館、百年記念館、児童会館、動物園など各社会教育施設で多種多様な講座を開講し、個人が能動的に学ぶ機会を広く公開することで、より多くの人たちに学びの場を提供し、学びを通じた仲間作りの促進と、今後のボランティア活動を行う人材の育成が図られることを期待します。

新型コロナウイルス感染症の影響による、過去3年間の遅れを取り戻すのは大変ですが、個人個人が知恵を出し合い、行動して、実行して、基本目標の実現に向けて着実に施策が推進されることを期待します。